



## 第16回飯田市地域史研究集会

# 山里社会の歴史とくらし

近世の飯田・下伊那では、多くの村が山間部にありました。こうした山間部村落(山里)は、平野部の農業を中心とした村落や城下町などの都市にとっても、建築用材や肥料・飼料、薪炭などの供給源として不可欠な存在でした。今回の研究集会では、近世～近現代の飯田・下伊那の山里社会が、どのように成り立っていたのかを考えます。第1部では、近世～近代の山里社会を分析した研究報告をめぐって議論します。第2部では、「木沢」と「清内路」という2つの地域を取り上げ、その歴史と現在を考えます。

2018年 8月25日(土)・26日(日) 開催

会場 飯田勤労者福祉センター(さんとぴあ飯田)  
(飯田市東栄町3108-1)

主催 飯田市・飯田市教育委員会

資料代 500円(2日間共通)※高校生以下無料

内容



### 25日(土) 10:00～17:00 第1部「山里社会 ー近世から近代へー」

報告「清内路郵便局と山里社会」 小島庸平氏(東京大学)

コメント 田中光氏(神戸大学)

報告「近世初期の城下町建設と伊那の材木」 吉田ゆり子氏(東京外国語大学)

コメント 多和田雅保氏(横浜国立大学)

報告「17世紀の樽木役の変質 ー脇坂飯田藩の樽木米を中心にー」 前澤健氏(高森町立高森北小学校)

コメント 羽田真也氏(飯田市歴史研究所)

※昼食後に、「にこにこクラブ」の皆さんによる二胡の演奏があります。

### 26日(日) 10:00～12:30 第2部「山里に向きあう」

〈木沢地域をめぐって〉

報告「文化的中核としての木沢小学校」 多和田真理子氏(國學院大學)

対談「木沢の歴史文化を未来につなぐ」

松下規代志氏(木沢地区活性化推進協議会)、田嶋一氏(國學院大學名誉教授)

〈清内路地域をめぐって〉

報告「近世清内路の村運営」 坂本廣徳氏(「清内路ー歴史と文化」研究会)

報告「清内路ー歴史と文化」研究会の調査と出会って」 原和信氏(清内路こども会)

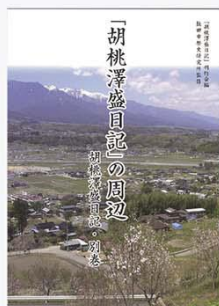
関連展示を飯田市立中央・鼎・上郷図書館で8月25日(土)～9月27日(木)に開催します。  
中央図書館 「山と共に生きる ～かつて、山はこの地に住む者にとって、とても身近なものでした」  
鼎図書館 「山と木と暮らし」  
上郷図書館 「野底山と歩んだ上郷の歴史」



## 近現代史ゼミ紹介

本ゼミでは二つのことをやっています。一つ目は、飯田・上飯田の地域を対象にした聞き書きです。この聞き書きは『飯田町の暮らし』として収録され、第7集まで発行しました。これからも、昭和期の戦争の時代から戦後史を生きてきた人々の人生に、向き合い、対話していくつもりです。私たちは、こうした地域の記憶を継承し、人と人を結びつなぐ営みが、地域を蘇生させることにつながっていくものと思っています。

二つ目は、『胡桃澤盛(くるみざわもり)日記』を読むことです。胡桃澤盛は明治38年に、旧河野村(現豊丘村)に生まれました。その生涯は、大正時代には青年運動の村のリーダーとして活躍し、昭和恐慌期には恐慌対策に奔走し、太平洋戦争期には村長として、満洲分村移民を決断し、戦後の自死によって、終焉を迎えました。『日記』はその20年間余を綴ったものです。ゼミの楽しみは、読み手の人生経験によって、『日記』の多様な読み方がなされ、それを相互に交流することができることでもあります。

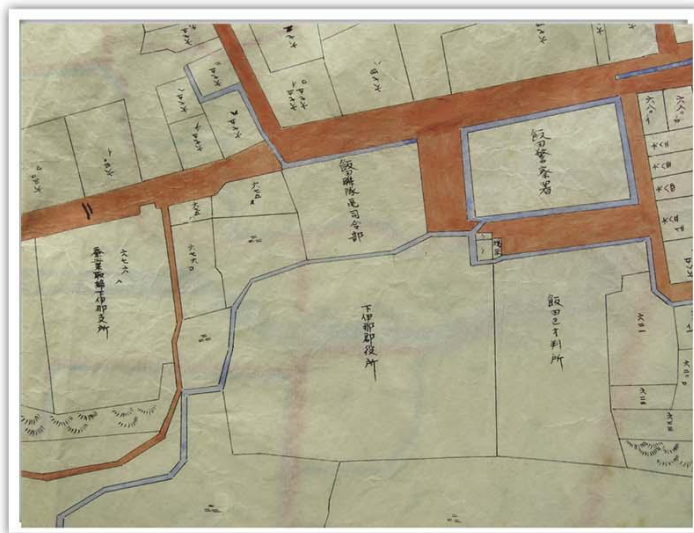


このように、本ゼミは、歴史の知識を前提とするものではなく、参加者の固有の人生経験に即して、対話することに主眼があります。どうぞ、皆様、お気軽にご参加ください。

(調査研究員 田中雅孝)

## 飯田町図紹介

「長野県下伊那郡飯田町図」が寄贈されました



下伊那郡役所、飯田連隊区司令部、飯田警察署、蚕業取締下伊那支所のあたり  
(現在の長野県飯田合同庁舎、中央図書館のあたり)

このたび、羽場の昔を学ぶ会より「長野県下伊那郡飯田町図」の寄贈を受けました。本図は6枚に分けて飯田町を描いたもので、大きさは縦56cm×横77.5cmほどです。土地の区画や番地などとともに、川や水路が青色で、道路が赤色で示されており、絵図がつくられた当時の町の様子がよくうかがえる貴重な史料といえます。作成年代は不明ですが、現在、中央図書館があるあたりに、飯田連隊区司令部が記されていることからみて、明治末～大正期のものであると考えられます。

(研究員 羽田真也)

## 阿智中学校の職場体験 学習を受け入れました



史料の目録をつくる体験

5月30～31日に阿智中学校2年生1名が、職場体験学習のため歴史研究所を訪れました。1日目は旧上郷町役場の文書目録の作成に取り組んでもらいました。2日目は座光寺の麻績史料館で文書の写真撮影を手伝ってもらいました。また、阿智村清内路に暮らす生徒だったので、2日目の最後に旧清内路中学校を訪問し、そこに保管されている清内路下区有文書を一緒に読みました。後日、本人から、「昔のことがどのようにして明らかになるのかがわかり、貴重な体験ができた」との感想が寄せられました。



## 森本洲平と胡桃澤盛の同日日記を読む

齊藤 俊江(調査研究員)

森本洲平と胡桃澤盛の家は天竜川に沿って約7キロ離れ、森本家が下流です。またその1キロ下流にある我家で、私はせせらぎを聞きながら、2人の日記を読んでいます。洲平と盛は同じ日、同じ時間にペンを執っていたかも知れません。私は翻刻された日記しか読めませんが、同じ日に書かれた日記を読むと、伊那谷の精神史を2人が代弁しているかと思うのは私の恣意でしょうか。

森本洲平は1885年山本村(現飯田市)生。森本家へ婿養子に入り東京高等商業学校(現一橋大)を卒業、松尾村(現飯田市)20町歩の地主、百十七銀行重役、松尾村産業組合長などをしながら、下伊那郡国民精神作興会を起ち上げ幹事となります。1971年没。日記は須崎慎一氏(当時一橋大学院生)が1924年1月～1929年8月までを翻刻、その続きを加藤陽子氏(東京大学大学院教授)がゼミ生と共に翻刻、現在1932年3月まで進んでいます。胡桃澤盛は1905年河野村(現神稲村)生。農地5町歩と山林を持つ地主、竜東農学校を卒業し農業に専念していましたが、村会議員、助役を経て1940年36歳で河野村の村長となりました。青年期には社会主義思想にもふれました。1943年満洲に分村移民を決断、村民を送出し多くの犠牲者をだし村長であった自らを責め1946年42歳で自死します。日記は歴史研究所近現代史ゼミで翻刻、『胡桃沢盛日記』全6巻と別冊を刊行会から編集出版しました。2人は次のように日記を書いています。

・大正14(1925)年4月27日 森本は、「組合本所行午前中監査して午後飯田行き、司令部解散式(飯田連隊同年5月1日解散)に関して関島と打ち合わせ。伊藤大尉とつれ立ち…」。

胡桃澤は、「午後飯田へ行く。結社事件(LYL=下伊那自由青年連盟の検挙事件)の人たちが4人今日下獄。羽生、代田、矢澤、今村。日没少し前、愛宕(刑務所)へ行く。見送りの人々40余名。1人で2抱え位の本を持つ。町の奴らが皆出てみる。護衛の警官が4人着いてくる。刑務所まで見送る。」

・昭和7(1932年)年2月24日 森本は、「動員下令の為人心不安…19名の壮行会を開く。軍人会の連中東奔西走せり…」。

胡桃澤は「動員令が下り、5名が26日と3月2日に入営を命じられ村内動揺し緊張す。神稲26名、市田30余名とか、愈々えらい事になった。」

日本が戦争体制に入る中で2人の日記も同じ方向に向かっていきました。

## 旧川路村役場文書調査の成果を報告しました

川路自治振興センターの敷地内にある蔵には、かつての川路地区の様子を知ることができる貴重な歴史資料(これを「旧川路村役場文書」と呼んでいます)がたくさん保管されています。歴史研究所では、2016・7年度の2年にわたって、まちづくり委員会の協力のもと、文化庁の「地域文化遺産活性化事業」の一環として調査に取り組みました。1年目には明治半ば～昭和期の文書約12,000点、2年目には江戸時代～明治半ばの文書約4,500点の整理と目録作成を行い、旧川路村役場文書の豊かな内容の全貌が明らかになりました。

6月23日には、地元で調査成果の報告会を開催しました。調査の概要(方法や課題など)とともに、江戸時代(宝暦期)の天竜川争論、満洲川路村開拓団、豊川海軍工廠天竜峡分工場に関する史料を紹介しました。また、絵図などの公開と解説も行いました。参加者は40人に及び、地元での関心の高さを実感しました。これを契機として、地域の方々と協働した調査・研究を、ますます進めていきたいと考えています。

(研究員 羽田真也)



絵図の説明



質問に答えている様子



報告の様子



## 飯田アカデミア2018第85講座

# 「大地に時を刻む建築のかたち」

講師 **太田 邦夫さん**

(東洋大学名誉教授・ものづくり大学名誉教授)

会場 **松尾公民館** (飯田市松尾城4012-1)

受講料 **500円** (資料代)

**10月20日** (土)

第1講 13:30~15:00

「柱のある建築とない建築

—世界からみた日本の伝統的な木造建築—

第2講 15:20~16:50

「木造建築の構法からみた柱配置の変遷史

—各地の遺跡や遺構の平面と古代人の建築幾何学—

**10月21日** (日)

第3講 10:00~11:30

「古代の天文学的な知識と建築の遺構

—柱の配置で時間の経過を表現する方法—

第4講 13:00~14:30

「時のシンボルとしての柱と柱列

—古代ヨーロッパの事例と日本の神社建築—

※1日のみ、1講義のみでもご参加いただけます。受講をご希望の方は歴史研究所までお申し込みください。当日参加も可能です。

## 歴研ゼミ&ワークショップ 8月・9月の予定

**受講生募集!** スタッフとともに  
歴史を学んでみませんか。

### 近現代史ゼミ

担当:田中雅孝(調査研究員)

9月8日・22日 10:00~11:40

### 満洲移民研究ゼミ

担当:本島和人(調査研究員)

担当:齊藤俊江(調査研究員)

第83回 8月4日 / 第84回 9月1日 10:00~11:30

### 地域史(川路)ゼミ

担当:羽田真也(研究員)

8月8日・22日 / 9月12日・26日(第2・第4水曜日) 18:30~20:30

※地域史(川路)ゼミは、毎回川路公民館で行います。

### 建築史ゼミ

※詳しい内容、日時は歴史研究所まで、お問い合わせください。

### 思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

8月8日 (8月は1回のみ)

9月5日・19日 (第1・第3水曜日) 19:00~20:40

### 自分史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

8月18日・9月22日 14:00~15:30

ゼミ・ワークショップの詳細・お申し込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。※悪天候等により中止する場合がありますのでお電話またはホームページで確認をお願いいたします。

TEL: 0265-53-4670

開所時間: 午前9時~午後5時

休所日: 日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日

## 地域史講座

### 「川路村の養蚕業に生きた人々の歴史」

川路の景観は高速道路と工業団地化により、激しい変貌を遂げつつありますが、かつては、天竜川の肥沃な氾濫原に大桑園が広がっていました。戦前の川路村は養蚕業が発展した地域で、全国的にも頂点に位置する大規模な養蚕経営がみられました。村役場と農家の資料から、地域の養蚕業に生きた人々の歴史を探っていきたいと思います。

開催日: **9月29日(土)**

報告者: 田中雅孝(調査研究員)

時間: **14:00~16:00**

場所: **川路公民館 大会議室**

(飯田市川路2363)

※参加費や事前のお申し込みは必要ありません。  
お気軽にお越しください。

**好評  
発売中**

## 飯田市歴史研究所 年報⑮

第14回飯田市地域史研究会の成果をまとめた特集「飯田藩と地域社会」を中心に、地域史研究の成果を掲載しています。



飯田市歴史研究所 編  
B5判 265頁  
定価1,800円



### 【特集】飯田藩と地域社会

千葉拓真 近世後期の飯田藩政—その展開と課題  
加藤みゆき 堀家旧蔵古書を中心とした飯田文庫の蔵書について  
竹ノ内雅人 近世における飯田の学問と文化  
—藩士・上層町人を中心に  
多和田雅保 「飯田藩と地域社会」によせて  
—都市史研究との関連で—

### 【小特集】田嶋一著『少年と青年』の近代日本

—人間形成と教育の社会史』をよむ

### 【論文】

本島和人 松島自由移民送出と下伊那郡町村長会

### 【研究ノート】

清水迪夫 伊那自由大学受講生の社会階層  
多和田雅保 遠山和田町の萬屋経営史料とはがき群について  
齊藤俊江 伊賀良村の満洲移民  
原英章 満蒙開拓青少年義勇軍の創設と関東軍の関わり